

(様式1)

自己評価及び外部評価結果

作成日 2022年 4月 12日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	2292300247		
法人名	医療法人社団 弘仁会 中根クリニック		
事業所名	グループホーム ももの花		
所在地	〒417-0855 富士市三ツ沢 427-1 (電話) 0545-23-2300		
自己評価作成日	2022年4月12日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
-----------------	--

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

利用者様が安心して穏やかに暮らせる場所になるよう、出来る事や楽しめる事を多く見付け、ひとりひとりに合わせたケアを提供するように努めています。また利用者様同士、職員とも関わり合い、支えあって共同生活が送れるような関係作りを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

--

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300247
法人名	医療法人社団 弘仁会 中根クリニック
事業所名	グループホームももの花
所在地	富士市三ツ沢427-1
自己評価作成日	2022.3.29
	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「地域の方に信頼される医療と介護の提供」という運営理念のもと、地域の皆様が認知症介護サービスを安心して利用いただける拠点としてお役に立てるように取り組んでいます。医療的なニーズにも対応し易く、お元気な状態を長く保てるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が医療法人なので、地域より信頼されている。認知症の対応も手厚く、地域とのつながりも強い。今後も良い関係作りを継続してほしい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 教日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根差した施設運営を目指して、スタッフ全員で理念を共有し、サービス提供に繋がっている。	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍による感染予防の為、地域活動が制限されていますが、緩和される状況に合わせて参加できるように努めていく。	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	スタッフ全員で理念を共有し、地域に根付いた施設になってほしい。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の状況で、ご家族以外には地域貢献できる機会が作れなかった。	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	状況に合わせて、事業所として対応可能な事の検討を、引き続きお願いしたい。
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染予防の為、書類での確認のみになった時期があったが、出来るだけ意見や情報を得られるように努めた。	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	施設感染予防の為、書面開催会議を有効に活用し、情報共有していた。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加いただき、活動状況や課題についてお伝えしたり、情報をいただいたり、協力関係が築けていた。	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	定期的な会議の開催時は、今後もお互いに情報共有していく。
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	改めて身体拘束廃止宣言を行い、接し方やスピーチロックについて定期的に委員会で話し合った。利用者様個々の尊厳を守るよう取り組んでいる。	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	今後も身体拘束をしないケアに積極的に取り組んでいく。
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に委員会で話し合い、虐待になる前の不適切な接遇を早期に発見し、防止するよう努めている。	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会として研修を行っているが、まだ十分ではない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用についての説明を行うと共に、不安や疑問が無いか確認している。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見として出た要望を、外部へ開示出来ていない。	本人、家族の要望を反映して、施設改善に役立ててほしい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関しては、職員に意見を聴き、反映している。	職員の話をよく聴き、日頃より風通しの良い関係を保ってほしい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修はあまり受けられていない。OJTにて伝える事が多い。法人内の研修は定期的に実施している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模多機能とグループホーム、それぞれの連絡会議で交流する機会がある。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望を聴き出し、ご家族からの情報も合わせて、関係作りが出来るように取り組んでいる。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安を解消し、求めるサービスを提供できるよう、説明し相談を受けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受ける中で、他のサービス利用が適切な場合は、説明し案内している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も共同生活を行う環境において、大きな生活困子であることを考えて関係作りをしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現状は面会制限等があるが、本来はご家族もご本人を支えるチームの一員として協力いただくよう説明している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症予防の為、機会は少ないが、可能な限りこれまでの生活が維持できるよう努めている。	入居前の生活歴を知り、今までの交流関係が保てるように努めている。	外出の機会が少ない中でも、今までの交流関係が途切れない様に支援してほしい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者ひとり一人の関係を把握し、関わりあえるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後であっても関係性を継続し、相談等があれば対応している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の発言や様子から、意向や要望を汲み取れるように努めている。	本人の希望や意向の把握に努めている。		発言が困難な利用者に対しても、アセスメントや日々の様子を踏まえて、意向を汲み取ってほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活歴を出来るだけ把握し、なるべく違和感の少ない環境づくりに繋げている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムや習慣を大事にし、また出来る事を多く発見するように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人を支える関係者と話し合い、意見をとり入れた計画を立てている。	本人、家族、関係者と話し合い、介護計画書を作成している。		本人、家族、関係者と一緒に介護計画書を作成し、要望に合った内容の支援をしてほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や気付きを共有し、計画に取り入れるように努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の変化に合わせたニーズに対応し、柔軟な支援が出来るように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で条件は限られているが、出来る限り地域資源を活かし、生活の質を維持できるよう考えている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の意向を確認し、必要な医療が受けられるような関係作りをしている。			本人、家族が安心して生活が出来る施設作りをしてほしい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との情報共有がスムーズに行えるようにし、随時必要な看護が受けられるようにしている。			
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は面会が出来ない状況ですが、病院関係者とのやり取りを行い、早期退院とその後の対応を確認出来るよう努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で以降の確認を行っている。また状態の変化に合わせ、改めて確認し方針を決めている。			状態変化に合わせ、本人、家族が満足する支援に取り組んでほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が急変時や事故の報告、相談の手順を把握するよう努めている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	施設としての災害対策や訓練は実施している。地域との連携は、被害状況の報告以上の対策は、今後の課題。			災害時に慌てずに避難できる方法が確保できている。 地域の防災訓練に参加し、連携がとれるような取り組みをしてほしい。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	外部	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を守った接遇を行うよう注意している。不適切な対応と感じた場合は、早期に話し合っている。	本人の人格やプライバシーに配慮した対応をしている。	職員が事業所内での報告の手順を把握し、話し合える体制であると良いと思う。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる場面を出来るだけ多く持つるように心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活のペースやリズムを大事にし、押し付けにならないよう注意している。			
39		○身だしなみやおしゃやれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃやれができるように支援している	好みの服を選択するように促したり、いつ外出しても大丈夫なように整えるよう努めている。			
40	外部	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人が出来る事は、職員と一緒に行うようにしている。食事を楽しめるよう、メニューや食形態を検討している。	利用者ひとり一人の好みや力を活かし、食事の準備をしている。	一緒に食事を作ったり食べたりすることで、楽しい食事の場を提供してほしい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事摂取量、水分摂取量をチェックし、不足していないか確認している。変化があれば医師に相談して指示を仰いでいる。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員の口腔ケアを個々の状態に合わせて行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく失敗が無い様に、個々の状態に合わせて誘導や介助を行っている。	排泄の自立に向けた支援が行えている。	個々の状態に合わせ、自立に向けた排泄行為が行えるように支援してほしい。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	排泄チェックを行い、排便が滞っている方については看護師に相談するなど、必要な対応を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的なスケジュールはあるが、要望があれば個別に柔軟な対応をしている。	本人が望むタイミングで入浴をしている。	施設のスケジュールはあると思うが、なるべく本人の望むタイミングで入浴できるように支援してほしい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は勿論、昼寝や食後の休憩など、個々のペースで休めるようにしている。温度調節など配慮し、安眠できるよう工夫している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	排便コントロールなど、状態に合わせて調整が必要な薬もあるので、利用者様の内服薬の作用を把握し、適切に服薬できるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	やりがいや達成感が得られるような役割や、生活に張りを感じられる楽しみを、出来るだけ多く見つけるよう心掛けている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現状では感染予防の為に外出を極力避けられているが、敷地内の散歩やドライブなど、徐々に掛付けられる機会を増やして行きたい。	現状では、コロナの影響で外出の機会が減った。	近隣への散歩など、可能な範囲で行える事を、利用者の希望に沿って検討してほしい。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金や貴重品は持ち込まない様にしていて、ご家族と相談の上、必要であれば対応している。買いたい物が出る状況になった際は、使える機会を持てるようにしたい。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族と相談の上、電話が可能であれば対応するようになっている。手紙のやり取りも、要望があれば対応している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活する空間であることを考え、あまり飾り過ぎず、必要なサインが目に入るように考えている。不快要素は排除し、混乱しない様に考えている。	必要ないサインが目につきやすい様、飾り過ぎがないようにしている。	他者との共有スペースになるので、心地よく過ごせる空間づくりをしてほしい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファの席が決まっいて、それぞれ仲の良い方同士で隣に座って話が出るようになるようになっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真などを居室内に置き、ご自分の居場所であることをわかっていただけのようにしている。	本人が使い慣れた品物を飾り、心地よく過ごす。	本人にとって居心地の良い空間となるよう、必要な設備、環境づくりに努めてほしい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を確保しながら、出来る事はご自分で行っていただくよう促している。			

(様式2)

目標達成計画

事業所名

作成日

2022年 4月 12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	書面での情報提供は、一方的な発信になりがちで、意見の吸い上げが弱くなってしまう。	記入式アンケート以外の方法も検討していく。	参加者が可能であれば、ZOOMの使用などを検討していく。	6か月
2	20	面会制限など、馴染みの関係の継続が難しくなっている。	安全を確保した上で、繋がりを維持する取組みを検討する。	毎月のお便りを見直し、より生活の様子が伝わる内容を目指す。友人や知人の方にも見ていただくよう促す。状況に応じて、面会の方法や頻度、方法を見直し、適宜対応していく。	6か月
3	23	外部との接触や外出が限られている中、施設での生活がマンネリ化しがちになっている。	意見や意向を探り汲み取って、日々の生活に楽しみを見出せるようにしたい。	出来る事、楽しめる事を出来るだけ多く発見し、個別に取り組む方法とスケジュールを立てて実施、反応や様子を共有し、継続して取り組んでいく。	6か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること

(様式4)

サービス評価の実施と活用状況

事業所の外部評価の実施と活用状況について振り返ります。

「目標達成プラン」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活用状況についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ① 運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/> ② 利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/> ③ 利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした。
		<input type="radio"/> ④ 運営推進会議でサービス評価を説明するとともに、どのように評価機関を選択したかについて報告した
		<input type="radio"/> ⑤ その他 ()
2	自己評価の実施	<input type="radio"/> ① 自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/> ② 前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/> ③ 自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/> ④ 評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意思統一を図った
		<input type="radio"/> ⑤ その他 ()
3	外部評価（訪問調査当日）	<input type="radio"/> ① 普段の現場を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/> ② 評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/> ③ 対話から、事業所が努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/> ④ その他 ()
4	評価結果（自己評価、外部評価）の公開	<input type="radio"/> ① 運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/> ② 利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/> ③ 市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/> ④ 運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/> ⑤ その他 ()
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/> ① 職員全員で次のステップに向けて話し合い、「目標達成プラン」を作成した
		<input type="radio"/> ② 「目標達成プラン」を利用者、利用者家族や運営推進会議へ説明し、協力やモニター依頼した（する）
		<input type="radio"/> ③ 「目標達成プラン」を市町へ説明し提出した（する）
		<input type="radio"/> ④ 「目標達成プラン」に則り、目標を目指して取り組んだ（取り組む）
		<input type="radio"/> ⑤ その他 ()